

今邑楽の少年野球が熱い!



7月16日、6年生にとって最後の町の大会が鶉農村広場で開催された。町内4チームで争われる大会だが、会場は熱気あふれる応援と、それに応えて躍動する子どもたちの姿があった。大会終了後、その余韻に浸る各チームの監督たちに話を聞くことができた。

―試合展開も応援の仕方それぞれに個性を感じました。各チームの特徴などを教えてください。
高島小野球クラブ・寺崎監督 子どもたちが主役の少年野球だけでなく、保護者と一緒に作っていくのが高島の野球。子どもたちの活動が保護者の楽しみでもあってほしいと考えています。団員数26人のうち7人が女子っていうのも、うちの特徴かな。

中野東小野球クラブ・小川監督 創部して10年になります。卒団したOBや保護者が指導しに来てくださった。大会の応援に来てくださった。そんなかたがたに支えられた団結力のあるチームです。
長柄ドジャース・栗原監督 かつて長柄小学校だけで四つあったチームが一つになって誕生した長柄ドジャース。歴史はもう20年近くになるのかな。実は少し前、団員数が激減してしまっていて……。それでも野球が好きなお子もたちが集まって今は28人います。
中野ビクトリーズ・吉田監督 前監督の金井一夫さんが長い間築かれた、まさに「伝統」が残るチーム。とはいえ、子どもたちの個性もあって、毎年異なった特徴のあるチームになります。
 ―その「伝統」ある中野ビクトリーズさんは、全国大会に出場しますね。チームの特徴は？

―試合形式の守備練習を繰り返します。
栗原監督 長柄も守備。守れないと試合にならないですからね。基本の「き」からじっくり時間を掛けます。
小川監督 あと、うちは走塁。一つ先のベースを狙おう、といつも話しています。積極性のある子どもの方が将来伸びる可能性や潜在能力を発揮しやすいと考えていますから。実際に積極性がそのまま打撃にも生きています。
 あるチーム。上の大会をたくさん経験しているから、いい意味で慣れているというか、子どもたちが動かない。
小川監督 私も同じ。打席に立ったときの堂々とした姿勢に感心する。オーラがあり、動かない。この点についてはどのような指導をされているのか知りたい。
 ―と、いいますが、吉田監督いかがですか？
吉田監督 それは内緒です(笑)。皆さんから目標にされる。光栄な



―中野ビクトリーズが全国大会出場を決めたとき……
寺崎監督・小川監督・栗原監督 あっ、やられた……(笑)。
 ―中野ビクトリーズの印象を聞かせてください。
寺崎監督 行動が早い。行動を早くするって、先を考えていないとできないことじゃないですか。見習いたいなって思う。実際、子どもたちに「見て学びなさい」と言っていますよ。

栗原監督 実力も実績も伴う伝統

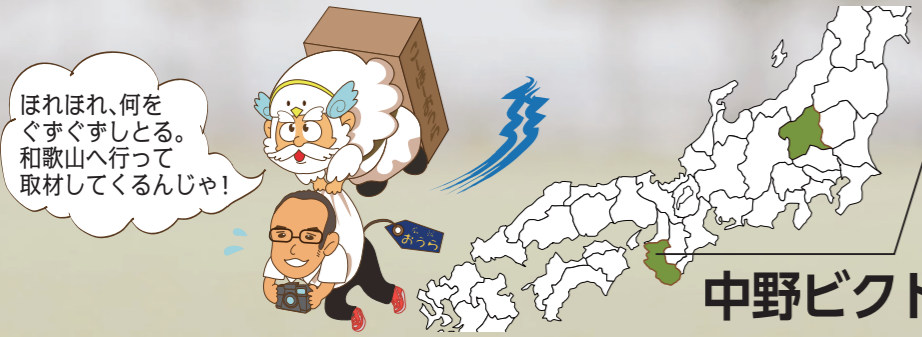
―中野ビクトリーズが全国大会出場を決めたとき……
 ことです。ただ、うちも完璧なチームというわけではありません。調子がいい時もあれば悪い時もありますし、見習うべきところは皆さんに学ばなければなりません。こうして4チームがそれぞれで活動をしていることが素晴らしいことだと思います。
長柄さんから「伝統」というお話がありましたが、長柄さんにとって20年以上の歴史の中に県大会出場の実績がありますし、8月に控えるJA主催の県大会には、都予

●第46回邑楽町少年野球大会結果(7月16日・鶉農村広場)

一回戦 第一試合	1	2	3	4	5	6	7	計	三位 決定戦	1	2	3	4	5	6	7	計
高島小	0	0	0	1	2	4		7	長柄ド	1	0	0	0	0			1
中野ビ	0	0	1	0	0	1		2	中野ビ	1	5	1	3	×			10
一回戦 第二試合	1	2	3	4	5	6	7	計	決勝戦	1	2	3	4	5	6	7	計
長柄ド	1	1	0	0	1	0	0	3	高島小	0	0	0	0				0
中野東	0	1	3	0	2	2	×	8	中野東	6	1	1	4				12

和歌山県伊都郡高野町

高野山真言宗の聖地高野山を中心とする町で、貴重な文化財・建造物・名所が数多く存在する。2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れている。



邑楽町初 全国へ 中野ビクトリーズ



中野東小野球クラブ 監督 小川 英昭 (新中野・33区)

選を一緒に勝ち抜いた東小さんと出場します。まさに切磋琢磨。全国大会初出場がたまにたまうちだったということ。実際に、今日は高島さんにやられました(笑)。
 ―皆さんが互いにリスベクトされている様子をうかがい知ることができました。最後に、全国大会に挑む中野ビクトリーズへ一言ずつお願いします。
小川監督 全国大会は、邑楽の少年野球界にとって未知の世界。ぜひ「邑楽」の名前を轟かせてきてほしいです(……悔しいけどね、いつかうちだって……)。
寺崎監督 高校野球の話になりませんが、頑張ってください。
栗原監督 県大会の常連チームでも、初めての舞台とあっては、子ども指導者も緊張すると思います。が、頑張ってください。
吉田監督 しっかりプレッシャーを掛けてくれますね(笑)。
 ―大会終了直後にも関わらず、ご協力くださり、ありがとうございました。



中野ビクトリーズ 監督 吉田 和正 (十三坊塚・6区)

吉田監督 少しおとなしい子が多しかな。でも冬場の走り込みは頑張りました。高校生でも音を上げるんじゃないかっていうほどハッパを使っって瞬発力や俊敏性を養うとか体操など工夫して行っています。投げたり打ったりという技術的な練習でなくても、体の使い方

ドな練習でしたから。その成果なんだでしょう、春以降は気持ちグッブリーに表れるようになりました。
 ―中野ビクトリーズは走り込みが特徴だというお話でしたが、他のチームはいかがですか？
寺崎監督 ラダートレーニング(はしご状のロープのようなもの



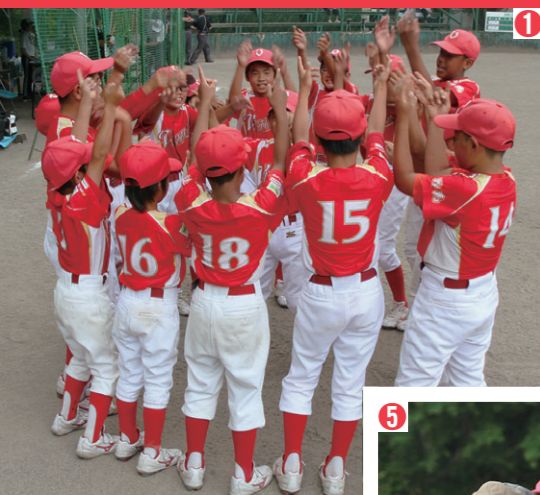
高島小野球クラブ 監督 寺崎 育好 (藤川・16区)

中野ビクトリーズが本町初の全国大会出場を決めた。このことは本紙先月号(7月号)でお知らせしたが、取材を進めていくうちに気付いたことがある。「これは、中野ビクトリーズだけの話ではないぞ」……居ても立ってもいられず、グラウンドへ走った。



中ビREDの 全国挑戦

—第21回高野山旗全国学童軟式野球大会—



1 試合前に輪になって気合を入れる。「はばちかす」とは沖縄の方言で「名声を高める」「サイコにする」といったニュアンスの言葉

2 エース宮村の力投 **3** ナモアの好走塁 **4** チーム初得点を生んだ平川のタイムリーヒット **5** 応援も力強く、最後まで諦めない **6** 初回のピンチで吉田監督がマウンドへ「アウトを一つずつ取って行こう」 **7** 一回裏の反撃は江田のチーム初ヒットから始まった

1 県大会を勝ち抜いた底力も反撃及ばずゲームセット

点差を詰めた中ビは、3回に満塁、4回に二、三塁と走者を出すも、後続が凡退してチャンスをつぶしてしまふ。逆に東広島は好打、好走塁を存分に発揮し、着実に追加点を重ね、5回表までに12点を積み上げた。

その裏、2死になって後がない中ビは、県代表の意地を見せる。二つの四球で2死一、二塁の場面でも2番吉田。ここでベンチ入りメンバー最後の一人、金井が代打に送られる。「ランナーコーチをしなから打席に立つ

●第21回高野山旗全国学童軟式野球大会 1回戦 第5試合

D会場(高野山高校グラウンド) 試合開始16:48 試合終了18:40

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
東広島クラッシャーズ Jr.	7	0	1	3	1			12
中野ビクトリーズ	2	1	0	0	2			5

【バッテリー】

東広島: 吉久、山藤—山口
中 ビ: 根岸・宮村・平川・根岸—平川

【中野ビクトリーズ安打】

単 打: 江田、根岸×2、吉田、金井
三塁打: 平川

第21回高野山旗全国学童軟式野球大会は、7月23〜26日まで和歌山県高野町で開かれ、全国35都道府県の代表52チームが優勝を目指して熱い戦いを繰り広げた。群馬県代表として出場した中野ビクトリーズ(以下、中ビ)は、初戦で広島県代表の東広島クラッシャーズJr.(以下、東広島)と対戦。12対5で敗れ、全国初勝利はならなかった。

和歌山県高野町は900mの山の上の盆地にある町。山林を吹き抜ける風は心地よく、真夏を思わせるセミたちの鳴き声も暑苦しさを感じさせない。予定時刻を少し過ぎたころ、中ビの出番はやってきた。試合前の守備練習を終えた選手たちが「よし、行くぞ」と輪になった。そして「我々は、中ビを、はばちかす!」と気合を入れた。午後4時48分、プレーボール。中ビの全国挑戦が始まった。

● 点の取り合いの様相

試合は一回表から大きく動く。先攻を選んだ東広島は、中ビの守りの隙をついて2点を先制。さらに、バントヒットを含めてこの回だけで6安打を集中させ、一気に7点を挙げた。

一回裏、中ビがすぐさま反撃を開始する。1死から2番江田がチーム初ヒットで出塁すると、3番根岸が中前打で続き、得点のチャンスを作る。2死一、三塁とした後、5番平川の左中間

を鋭く抜ける三塁打で二者が生還し、中ビの全国初得点が記録された。

● 主導権は渡さない エースの力投

二回表、流れをつかみたい中ビは、現地入りしてから体調が優れず控えて回っていた背番号1の宮村をマウンドへ。3番からの好打順の東広島に対し、宮村は力のある直球を投げ込み、三者凡退に切っけを見せる。エースがベンチの期待に応え、試合の流れを引き寄せた。

二回裏、守りのリズムを攻撃につなげたい中ビは、8番ナモアと9番松本がともに四球を選んで1死一、二塁。ライトの守備から試合に入った2番吉田が送りバントをきれいに決める。自分も生きようと懸命に一塁を走り抜けてセーフになると、この間に二塁ランナーのナモアが好走塁を見せて一気にホームへ返り、1点を返した。しかし、打線が続かずに三者残塁。

タイメージをしていた。バットをシンブルに振ろうと。その初球、高めに来たボールに反応し、バットを一閃、手で捉えた打球はセンターを越えて二者が生還。土壇場で2点を返した。しかし、反撃もここまで。この試合2安打を放った好調の3番根岸が遊ゴロに倒れ、ゲームセット。

● 欲しかった全国の白星 全員野球で最後まで諦めず

初めて立った全国の舞台。最後まで諦めることなく食らいついた中ビだったが、序盤での失点が大きく響き、初勝利を挙げることができなかった。

今年5月の県大会を勝ち抜き、第3位代表として手に入れた全国切符。全国は初戦で散ったものの、最後まで諦めずひたむきにプレーした姿は相手チームに強い印象を残した。

試合後、東広島の宮本宗成監督は「お互い初出場で、(試合の)入り方の難しさはありましたが、終わってみれば初回の7点が大きかったけれど、失点しなくてもすぐに点を返してくる怖さを感じていました。これは最後まで気が抜けないな。気持ち強いチームですね」と中ビの印象を話していた。

応援支援を受けて出場させてもらった。ベンチ入りメンバー全員で戦うという目標も果たした。勝つことはできなかったが、全国大会を経験できたことは、いろいろな意味で大きい」と何かをつかんだ様子。しかし、木村主将は「全国大会に出場できたのは良かったけど、自分たちの力を出し切れなかったのが悔しいです」とつぶやいた。

だが、すぐに前を向く。「全国大会に向けて監督やコーチ、お父さんやお母さんが僕たちのために一生懸命準備をしてくれました。すぐうれしかったです。今月には6年生にとって最後の県大会があります。決勝まで進めるように練習を頑張ります」と頼もしい。

中ビの全国挑戦が終わった。

中野ビクトリーズ保護者会 木村健一会長の話

全国大会出場を決めて以降、活動中に多くのかたがたから激励のお言葉をいただきました。また、企業、チームOB、子どもたちの祖父母や保護者の方から多大なご支援とご協力をいただきました。チームを代表して感謝申し上げます。ありがとうございました。

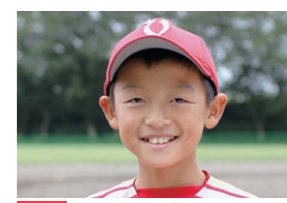




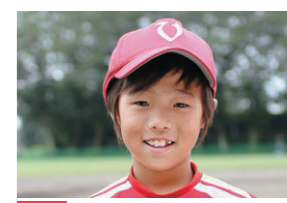
3 ナガフイナワタツユキ (6年) 選手
「絶対に勝ちたい」と思ってプレーした。いつも緊張を消すために声を出しているが、今日は二倍出した。



7 亀山 航一朗 選手 (6年)
ピンチの時にもっと声を出すべきだった。すごく悔しい。ベンチでスコアを書いてくれたお父さんにいつも感謝している。



12 平川 力暉 選手 (5年)
三塁打を打ててうれしい。持ち味のスピードは見せられた。でも悔しい。6年生がいたから全国大会に出場できた。



16 吉田 有希 選手 (3年)
悔しい。お兄ちゃんのプレーはいつも通りだった。お兄ちゃんたちは頑張った。次は僕たちが頑張る。



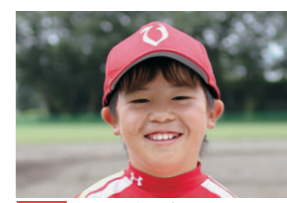
18 ナガフイナワタツユキ 選手 (3年)
ヒットを打った金井拓磨くんがかっこよかった。お兄ちゃんもプロ野球の大谷選手のように、打つのも投げのめすすごい選手になりたい。



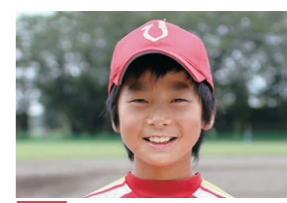
2 田嶋 涼太 選手 (6年)
ヒットを打てなくて悔しい。守備でチームに貢献できたと思う。相手は元気があって、すごく盛り上がっていた。



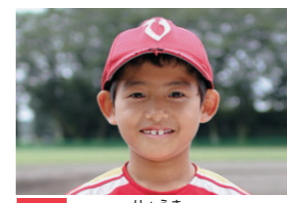
6 江田 昂生 選手 (6年)
初回にエラーをしてしまって悔いが残る。直後の打席で「絶対打つ」と思ってヒットを打てた。チームが負けたことは残念。



11 阿部 珠空 選手 (5年)
今まで以上に練習して強くなりたい。今回は県大会3位で全国大会に出場したけど、来年は県大会を制して出場したい。



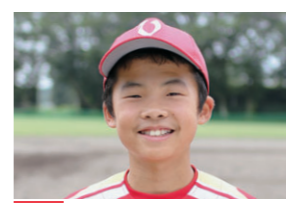
15 根岸 聖也 選手 (5年)
冬の走り込みを徹底的にしたり、素振りやピッチングなどの自主練習も頑張りたい。来年も全国大会に出場したい。



17 木村 涼毅 選手 (3年)
全国大会のレベルは高かった。練習を頑張ってプロ野球の大谷選手のように、打つのも投げのめすすごい選手になりたい。



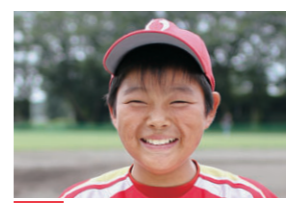
1 宮村 一輝 選手 (6年)
和歌山へ来てから体調が優れず、二回からマウンドに上がった。これ以上点を与えないつもりで頑張った。



5 飯島 幹太 選手 (6年)
チャンスに打てなかった。四番ということ意識してしまったのかもしれない。中学校でも野球を続けたい。



9 吉田 光希 選手 (5年)
負けて悔しい。勝ちかった。みんなで宿坊に泊ってお風呂に入ったり、ご飯を食べたりしたことはいい思い出になった。



14 金井 拓磨 選手 (5年)
最終回のチャンスで代打だった。バットをシンプルに振ることだけを考えて打席に立った。新チームで四番を目指す。



10 木村 裕毅 選手 (6年) 主将
試合終了直後はそうでもなかったが、じわじわと悔しさが湧いてきた。最後まで諦めない姿勢は見せられたと思う。



4 松本 真太郎 選手 (6年)
どんな時でも声を出すというビクトリーズの良いところを出せなかった。悔しい。8月最後の大会でヒットを打ちたい。



8 田名網 鳳我 選手 (6年)
ランナー1・2塁のチャンスにヒットが打てず悔しい。サードを守ったが、ダブルプレーが取れそうなプレーは惜しかった。



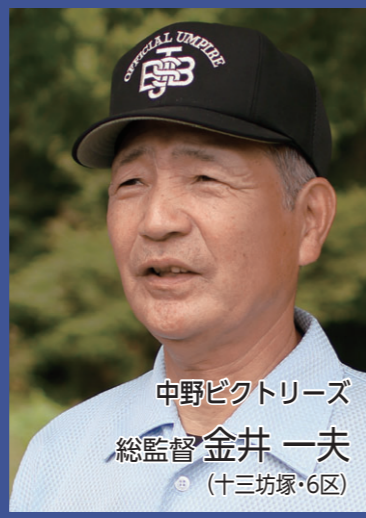
13 飯島 暖太 選手 (4年)
試合に出れてうれしかった。試合には負けちゃったけど、ホームベースを踏むことができた。また来てみたい。



◆群馬県から力を送った選手たち。総員25人が心をひとつに戦った。
後列左から宮澤弥希選手(4年)、秋山海音選手(3年)、小保方優月選手(3年)、新島瑞久選手(3年)、高山寛登選手(3年)、関口幹太選手(2年)、宮澤京佑選手(2年)

邑楽の少年野球が熱い理由

なぜ邑楽の少年野球が熱いのか。その「なぜ」を今、具体的に表現してくれる人物が3人いる。長きにわたり少年野球に携わり、その「熱」を伝承してきた男たちだ。いずれも野球を愛し、子どもたちを愛しているのだから。その語り口も情熱的だった。



中野ビクトリーズ 総監督 金井 一夫 (十三坊塚・6区)

指導者間の連携を町全体に波及させたい

一つに指導力が向上していることがあると思います。特に大きく変化する子どもたちの成長度合いを見極めて、その特徴を捉えて指導しているように見えます。適正な指導は、体力・技術の向上だけでなく、けが防止につながる重要なポイント。けがなくたくさんの活動ができれば、おのずと経験値は増えていきますね。それと4チームの連携が強くなっているのかな、切磋琢磨してお互いを高め合っているように感じています。練習メニューや指導方法を指導者間で話し合って「よいものはよい」と取り入れている。単に勝敗だけにこだわっていたらこうはできない。それぞれが「子どものために」って思っているからなんですよ。私の立場としては、これを野球以外の競技種目に波及させていきたい。今以上に。2020年には東京オリンピックも控えていますし、夢があるじゃないですか。

せっかくだから、少し自慢させてくれ!

自分で言うのもなんだけど、監督時分には「赤Vが来た!」って噂されるほど県大会の常連チームになって、数多くの大会に出場したよ。指導者の第一線から退いて、今は審判員として野球に関わっているけど、確かに邑楽町の野球レベルは高いね。昨年度の邑楽郡中体連夏季大会の決勝戦で邑楽中と邑楽南中が対戦したように、少年野球から中学校にいい流れがきている。理由?そりゃあ、指導者がよく勉強しているからです。「体力づくり、基礎づくりが大切だ」ってことは誰もが感覚で分かること。でも、それを練習でどう実践するかは指導者の力量なんです。それと、同じ指導者が複数年間に渡ってチームに関わるようになってきていることも大きいかな。チームの方針というか、考え方が理解されなければチームとしては強くないからね。理解してもらうには、時間が掛かるんですよ。

家庭でもっと語り合っほしいね、野球を

興味あるかたはいつでも聞いてください。詳しくお話させていただきます。さて、少年野球が熱い理由だけだと、私の経験から言わせてもらえば、高校野球を経験した指導者が増えたことかな。昔は、高校野球をやるってのは、経済的な理由とかもあって結構難易度高かったんです。質・レベルともに高い野球の経験値が子どもたちに生かされているんだろうと思いますね。



邑楽町スポーツ少年団 本部長 近藤 幸一郎 (店高原・28区)

オール邑楽の指導者 鍋田 努 (鶴上・12区)



今月号の盆野球といい、今回の少年野球といい、中学校野球部の活躍まで聞こえてくる。この町には野球に親しむよき歴史、よき流れがあるように感じた。2020年に行われる東京オリンピックでも野球が追加種目候補として挙がっていて、野球熱はますます盛り上がりそうだ。